



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### イラン：英国のサルマン・ラシュディ氏叙勲への反応 (6月17日付現地報道)

1. ホセイニ外務報道官の発言 (6月17日、定例記者会見)
  - (1) イスラム世界で最も憎悪されている者に対する叙勲は、英国政府高官の反イスラム的立場の明らかな証左である。
  - (2) 今回の背信者及び憎悪されている者への叙勲により、必ずや英国政府関係者はイスラム社会と対峙することになろう。何故ならば、ムスリムの心が再度傷つけられたからである。
  - (3) 今回の措置は、イスラムの聖域に対する侵害が偶然の出来事ではなく、仕組まれ、一部の西側諸国の指導及び庇護の下で発生したものであることを示している。
  
2. フォルーズ・イスラム世界運動殉教者守護本部事務局長の発言 (ファールーズ通信)
  - (1) 当本部は、故ホメイニ師による背教者サルマン・ラシュディ処刑命令を実行した如何なる者にも、15万ドルの報奨金の供与を保証する。イラン暦1383年(西暦2004年)にも当本部は、サルマン・ラシュディを処刑した者に10万ドルの報奨金供与を保証した。
  - (2) 英国によるサルマン・ラシュディに対する叙勲は、反イスラム的措置である。故ホメイニ師によるサルマン・ラシュディ処刑命令の発出以降、多くのムスリムはこの歴史的命令が実行されることを望んでいる。それ故に、サルマン・ラシュディは過去19年間悪夢の中で生きているのである。
  - (3) 英国及び背教者サルマン・ラシュディの支援者たちは、この作家の悪夢はその死の瞬間まで続くということを知らねばならない。我々は、この背教者を処刑することが出来た者の手にキスをし、ささやかながら15万ドルが故ホメイニ師によるサルマン・ラシュディ処刑命令を実行した者に与えられる。